

第4章

運航（船内及び訪問国活動）



1 運航日程・航路図

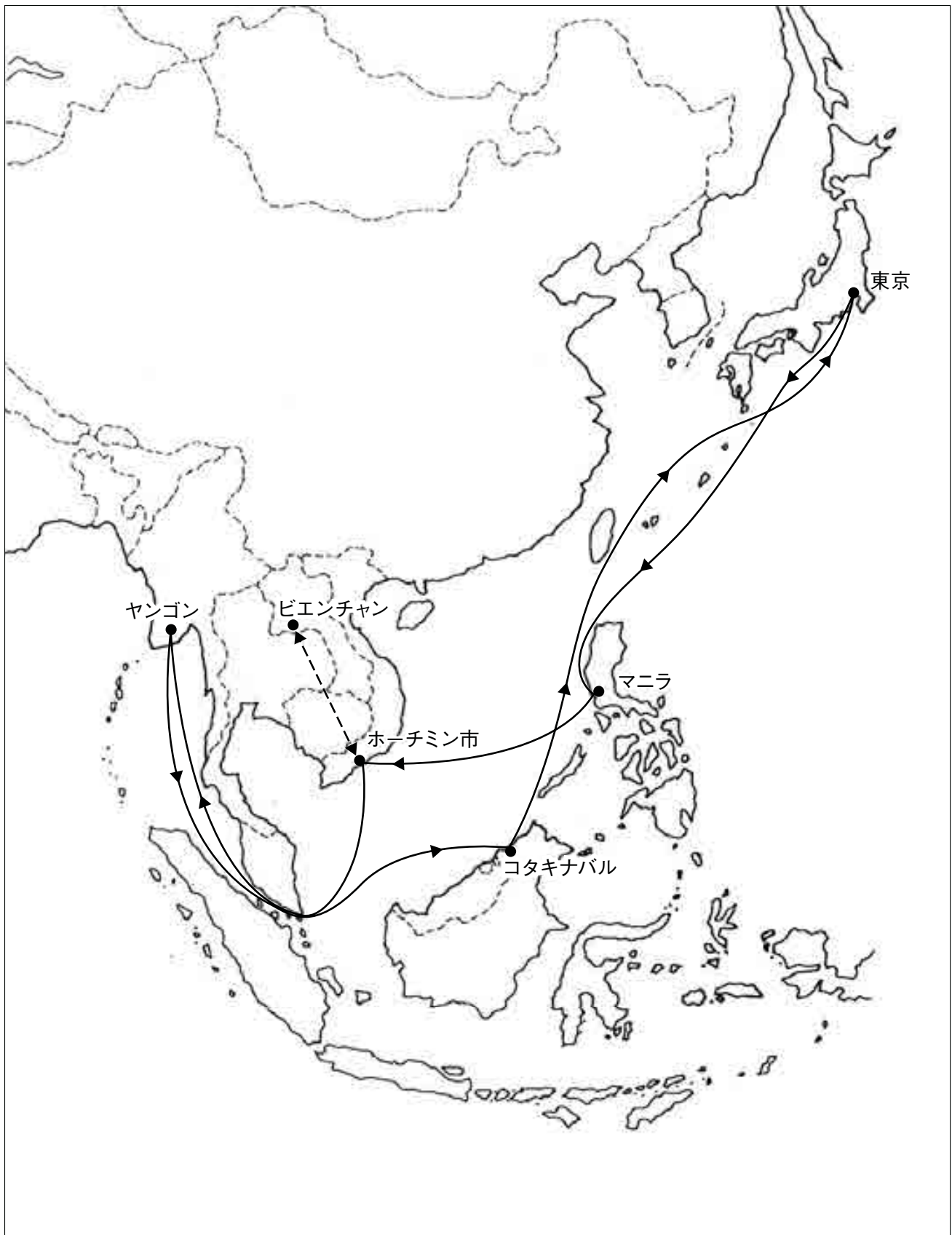
(1) 運航日程：11月5日～12月15日

	入港	出港
東京(日本)		11月5日
マニラ(フィリピン)	11月11日	11月14日
ホーチミン市(ベトナム)	11月17日	11月21日
ヤンゴン(ミャンマー)	11月26日	11月29日
コタキナバル(マレーシア)	12月5日	12月8日
東京(日本)	12月15日	

(注)

- ASEAN各国のナショナルリーダー(NL)及び参加青年(PY)は10月27日に来日し、翌28日に日本NL及びPYと合流、日本国内活動の後、11月4日に乗船。
- ファシリテーターは、10月30日に来日、12月8日にマレーシアにて下船、帰国。
- ベトナム寄港中、代表団が航空機でビエンチャン(ラオス)を訪問。(11月18日～20日)
- ASEAN各国NL及びPYは12月16日に下船、帰国。
- 日本NL及びPYは12月16日に下船、帰国後研修後、12月17日に解散。
- 事後活動組織代表者は12月6日にマレーシアに参集し、船内及び日本での活動後、12月18日に帰国。

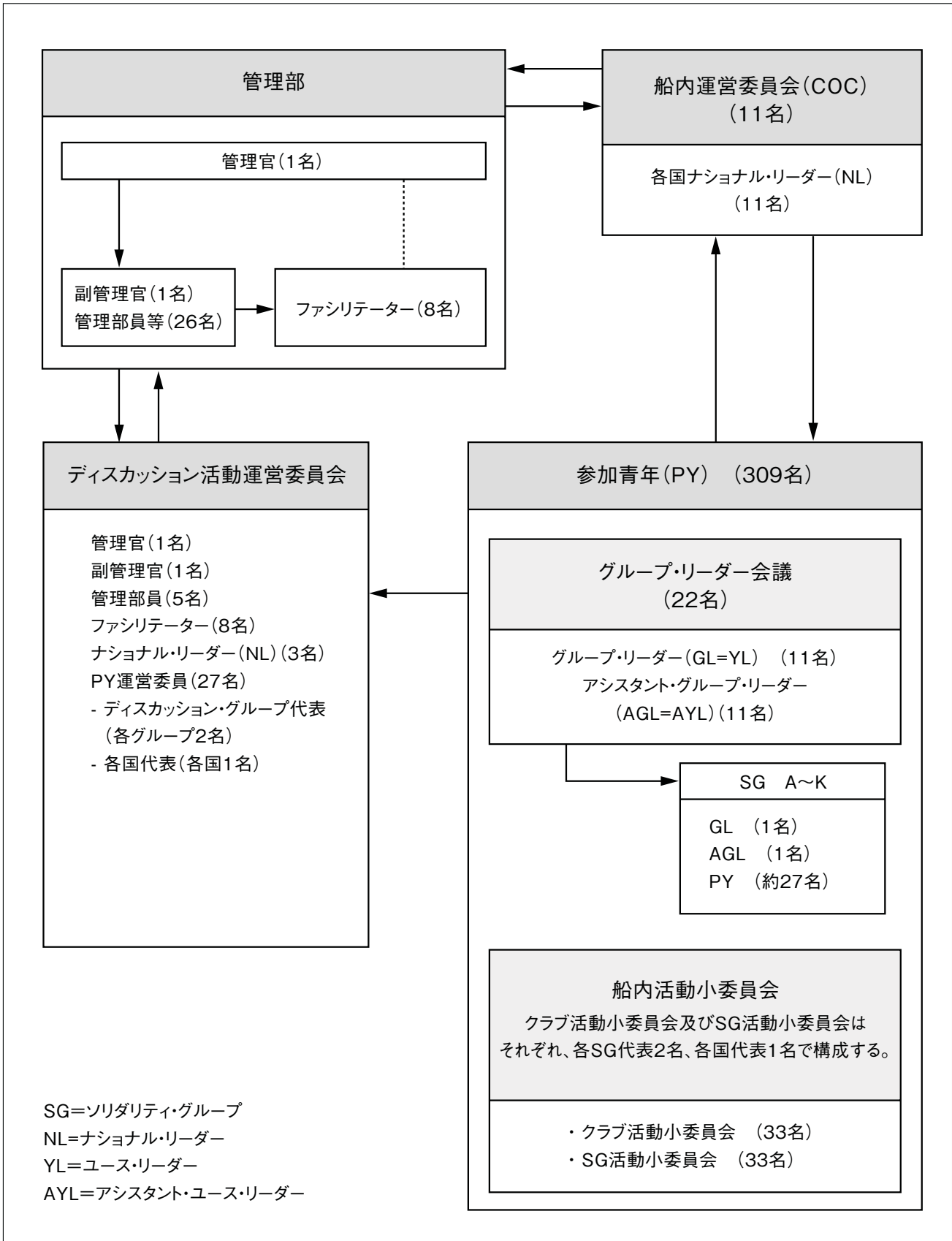
(2) 航路図



2 船内組織

(1) 船内組織図

平成27年度「東南アジア青年の船」事業（第42回）の船内組織は、次のとおりである。



(2) 船内運営委員会（COC）

COCは、NL11人で構成し、船内における生活基準、船内活動等の基本的事項について、協議・決定する。また、グループ・リーダー会議、ディスカッション活動運

営委員会、各船内活動小委員会及び参加青年（PY）に対し、指導及び助言を行う。

なお、管理官は、COCに対し必要に応じ指導及び助言を行うことができる。

【NL名簿】

国名	氏名	性別	職業	担当会議・小委員会
日本	中野 育子	女	会社員	グループ・リーダー会議
フィリピン	Diaz, Alfredo Bayoneta	男	大学助教授	ディスカッション活動運営委員会
ベトナム	Nguyen Quoc Tuan	男	大学講師	SG活動小委員会
ラオス	Thathsaphone Lerththavone	男	公務員	グループ・リーダー会議
ミャンマー	Nanda Aung	男	公務員	ディスカッション活動運営委員会
マレーシア	Mohd Mu Azam Shah Bin Abdul Mutalib	男	公務員	クラブ活動小委員会
ブルネイ	Pg Anak Mohd Sofian Pg Anak Ibrahim	男	公務員	クラブ活動小委員会
カンボジア	Chiv Ratha	男	公務員	グループ・リーダー会議
インドネシア	Syafwina	女	大学講師	クラブ活動小委員会
シンガポール	Zuraimi Bin Abdul Basheer	男	会社員	ディスカッション活動運営委員会
タイ	Damrong Jaiyot	男	公務員	SG活動小委員会

(3) ソリダリティ・グループ（SG）

船内及び訪問国における活動の基礎単位として、各国ほぼ同数の男女から成る約29人ずつのグループに組織する。これを、ソリダリティ・グループ（SG）と呼び、SG-AからSG-Kまで計11グループに編成した。

各SGには、それぞれグループ・リーダー（GL）及びアシスタント・グループ・リーダー（AGL）を置き、彼らがグループを統率する。GL及びAGLには、各国のユース・リーダー（YL）及びアシスタント・ユース・リーダー（AYL）を充て、かつ、同国のYLとAYLが同じSGに割り当てられないよう配慮して編成する。

また、各種活動・情報伝達を円滑に行うために、なるべく同じSGのメンバーが同室となるようキャビン割の際にも考慮した。

(4) グループ・リーダー会議（GLミーティング）

グループ・リーダー会議は、全てのGL及びAGLによって構成し、NL3名（日本、ラオス、カンボジア）を顧問とし、必要に応じて船内活動等について協議し、COC等に対し意見を述べる。また、COC及び管理部からのPYに対する連絡事項の伝達の役割や、各SG間の調整を図る役割も担う。

PYから提案された様々な自主活動の企画については、必要に応じてGLミーティングで検討・調整し、実施した。

また、フェアウェル・フェスティバルの企画・運営についてもGLミーティングで話し合い、実施した。

【GL (YL)・AGL (AYL) 名簿】

SG	GL (YL) 氏名	性別	国名	AGL (AYL) 氏名	性別	国名
A	Pattarin Sanguankaew	女	タイ	Ye Aung	男	ミャンマー
B	Mai Ngoc Nhan	男	ベトナム	Hajah Nur Roudhahtulqiyah Haji Isa	女	ブルネイ
C	De Quiroz, Jonathan Garcia	男	フィリピン	Anak Agung Mia Intentilia	女	インドネシア
D	Muhd Hafizh Abd Khalid	男	ブルネイ	Mamaril, Maxinne Erica Medenilla	女	フィリピン
E	Latsamy Banmanivong	女	ラオス	Tay Guan Joo, Nathaniel	男	シンガポール
F	Ng Hwee Yin, Wendy	女	シンガポール	Wiratchai Pongkoh	男	タイ
G	Nu Nu Lin	女	ミャンマー	Soulasith Sysanon	男	ラオス
H	Azlan Shah Bin A Shafiuddin	男	マレーシア	Phan Khanh Ha	女	ベトナム
I	吉田 幸広	男	日本	Bou Sochanmoninit	女	カンボジア
J	Suos Imsouchivy	男	カンボジア	Loshenavane Rajendran	女	マレーシア
K	Andika Sasmita Pratama	男	インドネシア	青木 有澄	女	日本

(5) ディスカッション活動運営委員会

ディスカッション活動運営委員会は、ディスカッション活動の適切な運営を図るため、管理官、副管理官、管理部員(5名)、ファシリテーター(8名)、NL(3名)、

PY運営委員(27名)をもって構成する。

ファシリテーターは、管理官の命を受けて、本事業に係る事務のうちディスカッションに関するものを処理する。

【ディスカッション活動運営委員会名簿】 * 国名に下線付きは国代表 PY

	グループ・テーマ	氏名	性別	国名
管理官		上村 秀紀	男	
副管理官		稲垣 洋一	男	
管理部員		伊井 頼子	女	
		新倉 真希	女	
		本間 あゆみ	女	
		上内 康輔	男	
		岳中 美江	女	
ファシリテーター	青年の起業	Polkrit Thomya	男	タイ
	異文化理解促進	Wiwit Prasetyono Hidayat	男	インドネシア
	環境(自然災害と防災)	Eudela, Ma. Lourdes Rosquillo	女	フィリピン
	食育	Saengnapha Uthaisaengphaisan	女	タイ
	保健教育(HIV/AIDS対策)	上田 めぐみ	女	日本
	国際関係(日ASEAN協力)	Aldecoa, Tito III Leduna	男	フィリピン
	学校教育	Low Chai Siong Anthony	男	シンガポール
NL	情報とメディア	Devianti Febriani Faridz	女	インドネシア
		Diaz, Alfredo Bayoneta	男	フィリピン
		Nanda Aung	男	ミャンマー
		Zuraimi Bin Abdul Basheer	男	シンガポール

	グループ・テーマ	氏名	性別	国名
PY運営委員	青年の起業	Roberto, Roy Joseph Reyes	男	フィリピン
		Bautista, Marie Anacelle Rosario Villanueva	女	フィリピン
		Rifi Fazrina Djuuna	女	インドネシア
	異文化理解促進	Andrada, Mary Rose Jean Catequista	女	フィリピン
		Chim Channaly	女	カンボジア
		Nutcha Charoenboon	女	タイ
	環境(自然災害と防災)	三宅 香菜子	女	日本
		Xavier Chia Pik Yang	男	シンガポール
	食育	Bui Thi Dan Anh	女	ベトナム
		Muhammad Asrafudin Iswara Bin Zakari	男	マレーシア
	保健教育(HIV/AIDS対策)	Alih, Fatimah Jasmeen Rabe	女	フィリピン
		Manylinh Inthilath	女	ラオス
		Teerapong Kunapura	男	タイ
	国際関係(日・ASEAN協力)	富塚 あや子	女	日本
		Delos Santos, Ivy Ebrano	女	フィリピン
		Tran Quang Hoa	男	ベトナム
		Ye Yint	女	ミャンマー
		Muhammad Sulaiman Bin Haji Sufardi	男	ブルネイ
		Ly Chhay Kuong	男	カンボジア
		Nasriah Binte Jamaludin	女	シンガポール
	学校教育	Natda Phumasavath	女	ラオス
		Nur Aliani Binti Che Sab	女	マレーシア
		Chan Wei Chee	男	シンガポール
		Chee Zi Hui	女	シンガポール
		Jane Saetent	女	タイ
	情報とメディア	Nhu Dinh Ngoc Anh	男	ベトナム
		Hoe Chi Hui, Winnie	女	シンガポール

(6) 船内活動小委員会

船内活動小委員会はPYで構成し、NLを顧問とし、各船内活動の実施の細目について協議、決定する機関である。クラブ活動及びSG活動について各小委員会を設けた。それぞれの小委員会は、各SG代表2人、各国代表1

人で構成し、それぞれ計33人で構成した。

クラブ活動小委員会の顧問をNL3名（マレーシア、ブルネイ、インドネシア）が、SG活動小委員会の顧問をNL2名（ベトナム、タイ）が、それぞれ務めた。

【クラブ活動小委員会名簿】 * 国名に下線付きは国代表 PY

SG	氏名	性別	国名
A	中島 綾香	女	日本
	Paleng, Marie Frances Delia	女	<u>フィリピン</u>
	Nguyen Kim Hue	女	<u>ベトナム</u>
	Chew Sie Chi	女	<u>マレーシア</u>
	Oum Vantheara	男	<u>カンボジア</u>
	Sirikanya Lorwatanapongsa	女	タイ
B	大柴 佳奈	女	日本
	Casan, Hammim Benito	男	フィリピン
	Southivong Mingbounta	男	<u>ラオス</u>
	Swan Pyae Aung	男	<u>ミャンマー</u>
	Maha Letchumy Govindasamy	女	マレーシア
	Dean Richi Tadisayu	男	<u>インドネシア</u>
C	Le Thuy Linh	女	ベトナム
	Norazmi Bin Mohamad	男	ブルネイ
D	Tan Si Da	男	シンガポール
	Khwanjira Ponsree	女	タイ
E	Han Hui Lin	女	シンガポール
	Kalil Pitsuwan	男	タイ
F	Keat Thyra	女	カンボジア
	Gurjeevaan Singh	男	<u>シンガポール</u>
	Pattalada Chaturavitwong	女	タイ
G	Nadillah Binti Jefri	女	ブルネイ
	Pinyo Meephiam	男	タイ
	Montakarn Khotchasawad	女	<u>タイ</u>
H	平尾 大地	男	日本
	Sok Peng Heang	男	カンボジア
I	Simon, Gracelyn Anzures	女	フィリピン
	Similan Jitjaroen	女	タイ
J	Jeremy Kong Wei Ming	男	シンガポール
	Phupa Sutthi	男	タイ
K	Nguyen Trong Hoang Quan	男	ベトナム
	Suhaidi Bin Ali	男	<u>ブルネイ</u>
	Nurhidayah Binti Juhari	女	シンガポール

【SG 活動小委員会名簿】 * 国名に下線付きは国代表 PY

SG	氏名	性別	国名
A	Md Faridz Bin Md Fadzil	男	マレーシア
	Kiki Riski Kemala Ayu	女	インドネシア
B	Mohd Amir Akram Bin Abd Rahman	男	マレーシア
	Mas Ariandi Kurniawan	男	インドネシア
C	Pham Dac Duc Anh	男	ベトナム
	Mohd Zaki Bin Salleh	男	マレーシア
	Rendy Harsono Pranata	男	インドネシア
D	Chittakone Keovilay	男	ラオス
	Pheap Sophorn	男	カンボジア
	Mech Sereyrath	女	カンボジア
	Surat Cheteh	男	タイ
E	Ngo Minh Quan	男	ベトナム
	Muhammad Hani Bin Abdul Ayub	男	マレーシア
	Nurul Afini Binti Abdul Razak	女	マレーシア
F	Pepito, Reymond Languing	男	フィリピン
	Aung Ye Min	男	ミャンマー
	Erwin Sylvester Joseph	男	マレーシア
G	小野関 直	男	日本
	Kannika Inthaxoum	女	ラオス
	Sowath Panharidh	男	カンボジア
H	Boon Nyuk Phin	女	マレーシア
	Muhammad Ashrani Azri Bin Abu Hanifah	男	ブルネイ
	Farras Ghaly	男	インドネシア
	Hay Choon Leong	男	シンガポール
I	武田 有人	男	日本
	Khairul Osman Bin Yaakob	男	マレーシア
J	鶴田 斗希生	男	日本
	Mohammad Nasrullah Bin Mohammad Shadan	男	マレーシア
K	Eusores, Wilhelm Wade Avellana	男	フィリピン
	Sidthisak Phimvongsa	男	ラオス
	Lip Sourmolivann	男	カンボジア
	Ung Monita	女	カンボジア
	Sebastian Hoe Wee Kiat	男	シンガポール

3 船内運営委員会（COC）協議事項

COCにおける協議事項は、以下のとおり、生活規律・船内活動・訪問国活動など、広範多岐にわたった。

第1回COCはNL会議の際に日本・東京で、第2回COC以降は基本的に各訪問国活動最終日の出港後に開催した。

第1回COCの際に協議・決定した事項のうち、PYに周知・徹底すべきものについては、「プログラム・ファイル」にまとめ、全参加者に配布した。

また、船内におけるPYへの連絡事項については、モーニング・アセンブリー、国別ミーティングや、船内所定の掲示板を利用した。

第1回（9月16日、17日、内閣府）
「第2章6. ナショナル・リーダー会議」を参照。

第2回（11月5日、船内COCルーム）

1. 日本国内活動の振返り
2. 船内活動及び船内生活について
3. その他

第3回（11月14日、船内COCルーム）

1. フィリピン訪問国活動についての振返り
2. 管理部からの連絡など

第4回（11月21日、船内COCルーム）

1. ベトナム及びラオス訪問国活動についての振返り
2. ミャンマー訪問国活動について
3. 管理部からの連絡など

第5回（11月29日、船内COCルーム）

1. ミャンマー訪問国活動についての振返り
2. マレーシア訪問国活動について
3. 管理部からの連絡など

第6回（12月8日、船内COCルーム）

1. マレーシア訪問国活動についての振返り
2. 管理部からの連絡など

4 船内活動

(1) 船内生活

船内生活時間

航海中の船内生活時間は、訪問国における活動を除き、次のとおり。

時間	活動内容
7:00	起床(モーニングコール)
7:30- 8:00	運動
8:00- 9:00	朝食
9:15- 9:45	モーニング・アセンブリー
10:00-12:45	活動
12:45-14:15	昼食
14:15-17:00	活動
17:00-18:00	自由
18:00-19:30	夕食
19:30-20:45	活動
20:45-23:00	自由
23:00	消灯(ナイトコール) ナイトパトロール

船内生活のあらまし

- モーニングコール、ナイトコール
モーニングコールは、毎朝7時に、PYが当番制（SG

持ち回り）で、船内放送を使用して起床の呼びかけや音楽を流す等、各担当が趣向を凝らして行った。

また、ナイトコールは、毎晩23時に、基本的にモーニングコールを担当したSGが同様にいった。

● 運動

毎朝7時30分から8時まで、ドルフィンホールで実施し、内容は各国の音楽を使った体操やダンス等多彩であった。運動への参加は任意とした。

● モーニング・アセンブリー

毎朝9時15分から9時45分まで、ドルフィンホールにおいて、SGごと又は国ごとに整列し点呼及び健康確認をし、その後、当番のNLが当日のスケジュール確認や連絡事項の伝達を行った。

● 活動

午前、午後及び夜の三つの活動時間帯に分けて行った（詳細は後述）。

午前及び午後の活動時間帯には、ディスカッション活動、クラブ活動及びSG活動等を、夜の活動時間帯にはナショナル・プレゼンテーション（NP）や自主活動をそれぞれ当てた。

● ナイトパトロール

ナイトコール終了後、NLが当番制で、船内各所を見回り、異常の有無を確認し、安全の確保に努めた。

(2) 船内活動構成

船内活動	時限	活動内容
ディスカッション活動 グループ別ミーティング 導入プログラム グループ・ディスカッション 事後活動の企画・実践への導入 事後活動の企画・実践に向けたワークショップ まとめ 成果報告会準備・DG毎のレポート作成 成果発表会 自己評価	27 (1) (2) (10) (2) (2) (2) (2) (4) (2)	共通テーマ「青年の社会活動への参加」のもと、八つの異なるテーマが設定され、ファシリテーターの指導により5回のセッションでディスカッションを行う
事後活動セッション	8	SSEAYPインターナショナル及び各国事後活動組織についての説明 事業終了後に行う社会貢献活動案の企画
クラブ活動 クラブ活動紹介 クラブ活動A クラブ活動B 成果発表会準備 成果発表会	14 (2) (4) (4) (2) (2)	クラブ活動小委員会が調整役となり、共通の興味・関心に基づいた異なる活動を実施し、相互に教え、学ぶことで自発的な交流を図る活動
SG活動	6	SG活動小委員会が調整役となり、各SGにおける参加青年相互の理解と友情を深めるための活動
各国紹介 (ナショナル・プレゼンテーション)	11	文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を国ごとに紹介する活動
講話 管理官講話 船長講話	2 (1) (1)	管理官による講話 船長による航海経験等に関する講話
フリーデイ	10	
自主活動	13	明確な目標・目的を持った各種イベントやセミナーなどを参加青年が自由に企画・運営する活動
委員会	3	GLミーティング、ディスカッション活動運営委員会、船内活動小委員会
SGミーティング	1	船内活動小委員会メンバーの選出
国別ミーティング	5	船内及び訪問国における活動の振返り等
訪問国活動振返り	6	寄港地における活動や経験の共有と振返りをSGごとに行う活動
管理部によるオリエンテーション	1	船内活動、カウンター受付、物品貸出、活動場所予約、食事持出などの説明
海事・通関関係 船側オリエンテーション・避難訓練 船内見学・写真撮影 出国・入国・下船手続き説明 下船準備	10 (1) (2) (4) (3)	船内設備説明・非常時を想定した避難訓練等 操舵室の見学、報告書用の写真撮影 入国・下船手続き、通関などの説明 荷物の移動、清掃等
フェアウェル・フェスティバル準備	2	
フェアウェル・フェスティバル	1	GLミーティングによる企画・運営のお別れ会
帰国報告会準備	1	
帰国報告会	1	国ごとの事後活動案の発表及び管理官による報告
解散式	1	NL及びPYへの参加証の授与
解散パーティー	1	
合計	124	

注)「時限」の一部は四捨五入している場合がある。

(3) 船内活動実績

月 日	10:00 ~ 11:15	11:30 ~ 12:45	14:15 ~ 15:30	15:45 ~ 17:00	19:30 ~ 20:45
11月4日(水)				乗船	オリエンテーション
5日(木)	避難訓練	出国手続	船内公開	出航式	国別ミーティング
6日(金)	オリエンテーション	ディスカッション活動 (グループ別ミーティング)	GLミーティング ディスカッション活動運営委員会		自主活動
7日(土)	SGミーティング	船内活動小委員会 ディスカッション活動 運営委員会	写真撮影 SG別) 船内見学		自主活動
8日(日)	管理官講話	船長講話	ディスカッション活動 (導入プログラム)		ナショナル・プレゼンテーション (日本)
9日(月)	ディスカッション活動 (グループディスカッションⅠ)		クラブ活動紹介		ナショナル・プレゼンテーション (ブルネイ)
10日(火)	ディスカッション活動 (グループディスカッションⅡ)		SG活動		ナショナル・プレゼンテーション (フィリピン)
11日(水) ~ 14日(土)	フィリピン訪問国活動				
15日(日)	フリーデイ(半日)		ディスカッション活動 (グループディスカッションⅢ)		ナショナル・プレゼンテーション (ラオス)
16日(月)	訪問国活動振り返り<SG毎>		ディスカッション活動 (グループディスカッションⅣ)		ナショナル・プレゼンテーション (ベトナム)
17日(火) ~ 21日(土)	ベトナム訪問国活動 代表団によるラオス訪問国活動(11月18日(水)~20日(金))				
22日(日)	フリーデイ(半日)		SG活動		自主活動
23日(月)	ディスカッション活動 (グループディスカッションⅤ)		クラブ活動A		ナショナル・プレゼンテーション (カンボジア)
24日(火)	ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践への導入)		クラブ活動A		ナショナル・プレゼンテーション (インドネシア)
25日(水)	ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践に向けたワークショップ)		自主活動		ナショナル・プレゼンテーション (ミャンマー)
26日(木) ~ 29日(日)	自主活動		ミャンマー訪問国活動		
30日(月)	フリーデイ(半日)		訪問国活動振り返り<SG毎>		自主活動
12月1日(火)	ディスカッション活動 (まとめ)		クラブ活動B		ナショナル・プレゼンテーション (シンガポール)
2日(水)	ディスカッション活動 (成果発表会の準備・DG毎のレポート作成)		クラブ活動B		ナショナル・プレゼンテーション (タイ)
3日(木)	ディスカッション活動(成果発表会)				自主活動
4日(金)	ディスカッション活動 (自己評価)		SG活動		ナショナル・プレゼンテーション (マレーシア)
5日(金) ~ 8日(月)	マレーシア訪問国活動				
9日(水)	休養日				自主活動
10日(木)	訪問国活動振り返り<SG毎>		事後活動セッション(全体会)		自主活動
11日(金)	事後活動セッション (国別・各国の事後活動紹介)		クラブ活動A (成果発表準備)	クラブ活動B (成果発表準備)	自主活動
12日(土)	事後活動セッション (国別プロジェクト案議論・作成)		クラブ活動(成果発表)		自主活動
13日(日)	事後活動セッション (国別プロジェクト案完成・帰国報告会準備)		フェアウェルフェスティバル準備		フェアウェル フェスティバル
14日(月)	下船手続説明	国別ミーティング	荷物移動		
15日(火)	入国手続		帰国報告会準備	帰国報告会	解散式 解散パーティー
16日(水)	下船				

(4) ディスカッション活動・事後活動セッション

ディスカッション活動は、異なる背景を持つ各国PYが自由に意見交換を行うことによって相互理解を深めることを目的とした活動である。

事後活動セッションは、ディスカッション活動の成果を活かし、事後活動への積極的な参加の推進、事後活動組織のネットワーク強化を目的として実施した。

詳しくは、第5章「ディスカッション活動・事後活動セッション」を参照。

(5) クラブ活動

以下のことを目的としてクラブ活動を実施した。

- ・ 共通の趣味と関心の追求を通じて、PY相互の自発的交流を図ること
- ・ 一つのクラブ活動に継続的に参加することで、互いの文化を深く理解すること
- ・ 他国の文化（伝統工芸、歌、ダンス等）を習得することを通して、その国の文化の本質を知ること
- ・ クラブ活動を主催するPYは、日本とASEAN各国のPYを指導することで、リーダーシップを学ぶこと
- ・ 日本とASEAN各国のPYが一体となり、一つの成果を生み出す体験をすること

また、クラブ活動の運営は、担当顧問であるNL3名（マレーシア、ブルネイ、インドネシア）の指導のもと、各SG及び各国の代表者から構成されるクラブ活動小委員会が行った。

まず、11月9日に、クラブを主催するPYが全体に対して、各クラブの活動内容を紹介した。PYは、「クラブ活動A」及び「クラブ活動B」のそれぞれの活動において、主催者または参加者の立場を選んで一つのクラブに参加した。12月12日にはクラブ活動の成果として、各クラブ活動に参加したPYによる発表をドルフィンホールにて行った。

クラブ活動を通してPYは、自国の芸能やスポーツなどを伝えるだけでなく、他国の文化に触れ、実際に体験することにより、相互理解を深め、文化の多様性を認識する絶好の機会となった。

開設されたクラブは以下のとおりである。

クラブ活動A

11月23日 11月24日

<フィリピン>

伝統的及び現代的な踊り

<ラオス>

ハンディクラフト（国花のブローチ、手作りバッグの装飾、プレスレット作りなど）、伝統衣装着付け体験

<マレーシア>

伝統舞踊と楽器、ヘナ体験、伝統的な遊び、多彩な米粉を使った花のデザインアート

<シンガポール>

インド系伝統舞踊、伝統的な遊び

<タイ>

タイ式マッサージ、タイの幽霊や伝説、占いや迷信からタイの文化を学ぶ

クラブ活動B

12月1日 12月2日

<ベトナム>

竹細工（トンボのヤジロベエ）と仮面の絵付け、ベトナム料理とベトナムコーヒー

<ミャンマー>

伝統的な遊び、伝統舞踊、ミャンマー語講座、伝統的な食べ物の紹介

<ブルネイ>

伝統的な遊び、伝統楽器、アラビア文字の習字、伝統的及び現代的な踊り

<カンボジア>

伝統舞踊と武術、伝統衣装の着付け体験、カンボジアの象徴的な植物（葉）を使ったハンディクラフト、チームビルディングのゲーム

<インドネシア>

バリ及び西スマトラの伝統舞踊、パティック布を使ったハンディクラフト作成、ヒーリング効果のあるプレスレット作り

<日本>

茶道、沖縄伝統舞踊エイサー、書道



クラブ活動（ラオス）

(6) ソリダリティー・グループ（SG）活動

SG活動は、PY相互の理解と友情を深めることを目的とした活動であり、主にSG対抗や全員参加形式のレクリエーションを行った。この活動の運営は、担当顧問であるNL2名（ベトナム、タイ）の指導のもと、各SG及び各国の代表者から構成されるSG活動小委員会が行った。

SG活動小委員会は、SG内の団結力や連帯感を高めると同時に、活動を通してPYが心身ともにリフレッシュできるよう多彩な企画を立てた。

こうしたSG活動を通して、SG内の結束だけでなく、PY全体の一体感も高められた。

< SG活動の日程・内容 >

- ・ 11月10日
アイスブレーキング、チームビルディングゲーム、宝探し競争、振り返り
- ・ 11月22日
アイスブレーキング、「ゲームオブスローンズ」(建国ゲーム)
- ・ 12月4日
アイスブレーキング、SSEAYPオリンピック、振り返り、写真撮影



(7) ナショナル・プレゼンテーション (NP)

NPは、各国毎にPYが音楽・舞踊・劇・説明・ビデオ等を用いて、各国の文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を紹介することにより、参加各国についての理解を深めることを目的としている。NPはドルフィンホールのステージを用いて行い、各訪問国については、その国に関する知識を事前に得ることができるよう、各国に寄港する前日に開催した。

他の船内活動に支障をきたさないように、準備時間を設けるなど配慮した。企画・準備から司会進行、パフォーマンス、音響・照明、ステージの飾りつけに至るまで、すべてPYが役割を分担して行った。それらを鑑賞した各国PYたちは、それぞれの文化の差異を再認識するとともに、日本と東南アジア文化圏の多様性や類似性について実感した。

また、各国食文化に対する理解を促進することを目的として、各国NPが行われる日の昼食には、各国の代表的な料理を二品提供した。

国	概要
日本	日本のNPは、「道」の精神を伝えることをテーマとしている。まず、書道のパフォーマンスで「道」の精神を分かりやすく説明。武士の時代に誕生した「道」の精神は現代の日本人にも受け継がれていることを、日本の伝統的な文化である武道(柔道、剣道、空手道)の実演やソーラン節、そして現代のアイドルやオタクをダンスパフォーマンスで紹介。また、現代の日本の青年を取り巻く状況として、多くの日本の学生が経験している厳しい就職活動の様子を劇で紹介。
ブルネイ	ブルネイのNPは、かつてのブルネイにおける男子の成長を追った物語仕立にしている。物語は、赤ん坊が生まれると父親が祈りの呼びかけをしてイカーマを唱え、母親が子守歌インドゥン・アナックを歌うところから始まる。次に、村で遊ぶ幼少時の少年の姿とともに、伝統的な遊びが紹介される。青年に成長した彼はブルネイ中を旅し、他の民族に出会う。文化的な舞踊によりブルネイの様々な民族 - ウマック(ムルット族)、アドック・アドック(ケダヤン族)、テマロック(ドゥスン族)、アライ・セカップ(ブライツ族)を紹介。青年はやがてブライツ族の娘と恋に落ち、彼の恋心に対して少女たちがアンディン・ディダの踊りで応えていく。そして、男性の家族が女性の家族を訪問するメリシク、パウダー儀式と呼ばれるペーバダック、そして、ブルネイ人の結婚式のクライマックスである披露宴サンディングといった、ブルネイの結婚にまつわる儀式が執り行われる。結婚式に必要な不可欠なハドラーやベムクンといった演目のほか、夫婦関係を表現した舞踊アルス・シュア・デンダンも演じられる。
フィリピン	フィリピンのNPは、LAWIGと呼ばれる。フィリピンの国民的英雄であるホセ・リサールの役割を中心に、独立までの変化に富んだ道のりと、フィリピンの文化を守ろうとする若者を描いたものである。NPは、多様で豊かなフィリピンを表す伝統舞踊、フォークソング、ロマンティックな踊り、祭り、地方の舞踊、自国を誇る歌で構成。最後は、自分の国が成功するために、また、自国の文化を守るために、青年自身もその役割が担えるのではないかという挑戦をすべての青年に対して投げかけて終わる。
ラオス	ラオスのNPは、「孤児と古代の箱からの天使」という題目のロールプレイで表現される。食料となる野菜や魚を探しながら、その日暮らしをする恵まれない孤児の物語である。この質素な生活は、ラオスの伝統的なライフスタイルを表現しており、魚釣りの踊りが演じられる。彼が魚を捕っている間、古代の箱から天使が現れ、三つの願いを叶えるという。彼の一つ目の願いは、年間を通して行われる祭りを楽しみたいというものである。ここでは、伝統的な舞踊を通して、モン族の正月、ラオスの正月、ロケット祭り、ボートレース祭り、タートルアン祭りという五つの主要な祭りを紹介する。彼の二つ目の願いは、村人に受け入れられる人になるため、町で最強のボクサーになりたいというものである。ここではラオ・ボクシングが演じられる。天使と時間を過ごすにつれ、恋愛感情が生まれる。最後の願いの時になるが、孤児は願いの代わりに天使に求婚する。ここでは、ラオスのプロポーズや伝統的な結婚式の様子が表現される。

国	概要
ベトナム	ベトナムのNPは、少年が成長とともに、ベトナムの文化や伝統の理解を通して人格を形成していく様子を、非常にシンプルだが興味深く描いている。NPは、愛情深い母の子守歌で始まり、バナナ園の遊び場（第2演目）、田畑での仕事（第4演目）と続く。伝統的な楽器であるダン・トラン（第3演目）、勤勉で熱心な塩田従事者（第5演目）、高山地域の野性的で力強い踊り（第6演目）、非常に美しいアオザイ（第7演目）が演じられる。そして、ヒップホップ、ジャズ、マッシュアップ、フラッシュモブを通じて、現代のベトナム青年が伝統を守りつつ、新しいものも受け入れている様子を表現。
カンボジア	カンボジアのNPは、カンボジアの三つの主要な時代であるアンコール、ロンヴェク、現代を取り上げている。カンボジアの豊かな文化、奇跡の王国を様々な舞踊、寸劇、武術などを通して表現。また三つの時代を通じた愛や葛藤、また、現代のカンボジア青年がどのような職業に就いているかを示す。カンボジアのNP全体を通して、長い歴史に基づいた、カンボジア文化と伝統の豊かさと独自性、そして今日のカンボジア青年がおかれている状況を表現。
インドネシア	インドネシアのNPは、主なねらいを二つ設定。一つ目は、インドネシアの様々な自然や文化の美しさを示すこと。二つ目は、インドネシア国民一人ひとりに宿る融和の精神に光をあてて紹介すること。融和の象徴である神鳥ガルダを用いながら、伝統舞踊でインドネシア文化の多様性を目で見て見てわかるように表現。さらに、すべてのインドネシア人が一つになり、手を取り合って「多様性の中の統一」という共通の目標に向かっていこうという希望を表現。
ミャンマー	ミャンマーのNPは、ミャンマーの伝統や文化的価値を表現するために、最も人気のある舞踊を用いて時系で描いている。アピョードー（祈りの踊り）は、特別な時の最初に演じられる舞踊である。バガン・ダンスは、優しく、壮麗で、魅惑的な動きが特徴である。錬金術師の精霊の踊りは、伝説上の生き物による舞踊を描いている。ヤウン・ベイ・スー・ダンスは、田舎での幼少時代の思い出を表現。ウ・シュエ・ヨーとドモーのペアのダンスは、可愛らしく愉快的なカップルの様子を表現している。アニェインは、女性ダンサーを主に男性コメディアンとともに演じる伝統的な舞台演目である。ティンジャン（水祭り）のダンスは、ミャンマーの新年祭にて演じられる最も躍動的なものである。ラッ・ドー・ツウのダンスは、都会の男性と地方の女性の愛情を表したもので、ミャンマーの人々の典型的なライフスタイルも表現している。タイン・イン・ターは、ミャンマーの主要な民族の和合を描いている。
シンガポール	シンガポールのNPは、観客を魅惑的に2世紀以上前のシンガポールへと導くものとなっている。シンガポールは建国50周年（SG50）を迎え、二人の青年がシンガポールにとって重要な節目となった出来事への旅をする。二人は、様々な文化や伝統を、民族舞踊、歌、祭りを通して経験する。二人はリトル・レッド・ドット（小さな赤い点＝シンガポールのニックネーム）の中にも自分自身の居場所を再認識し、自分の国というものへの想いも変化していく。第1幕：二人は、古き良き物が集まるフリーマーケットに出かけ、魔法の力を持った物を見つける。第2幕：二人は宮殿のお祝で、シンガポールの名づけ親であるサン・ニラ・ウタマ王子に出会う。第3幕：舞踊が行われているが、現代シンガポールの創設者であるスタンフォード・ラッフルズは楽しんでいない。解決策が必要！第4幕：インド人地区ではインド系の人々が踊りの練習に励み、中国人地区では、新年のお祝いが繰り広げられている。恭喜发财！第5幕：幸せにあふれた時期で、みんなで楽しく踊っているが、シンガポールのすべてを変える劇的な出来事が起こる。第6幕：独立！青年二人は、兵役義務やグレート・シンガポール・ワークアウト（国民健康増進プログラム）など、シンガポールのアイデンティティを形成し、実際のところ意義深いものとなった象徴的なことについて気付いていく。第7幕：目を覚まして行動を起こす時！二人は現在に戻り、今後より良い青年になるために導いてくれる人に出会う。
タイ	タイのNPは、青年の役割と責任に焦点をあてている。タイ中央部にある畑のかかしが、彼の瀕死の畑のために魔法の命の花を探して国中を旅する物語である。この旅で、かかしはタイの四つの地域の舞踊（例：フオン・ウィー、ラム・ボン・ラン、タリーギーパス、グローン・ヤーオ）やタイ・ボクシングなどタイの多様な文化を目にする。かかしの穀物に対する責任は、青年の社会に対する責任を例えている。個人の権利の行使と社会的義務の間での対立が葛藤の中心にある。（かかしの場合、愛のために永遠に人間になりたいという望みを叶えるか、穀物を守り責務を全うするために個人を犠牲にするか。）今の若い世代は、権利や便利さを常に社会に要求し、還元する責任を忘れがちである。青年は、これまでの世代が与えてくれた計り知れない機会を大事にすることなく、個人的な権利やニーズを満たすことに力を注いでいる。タイのNPの重要なテーマは「責任を果たさずして権利は得られない」というフレーズで強調されている。これは社会における青年の重要な役割を思い出しってもらうための、我々の世代の青年への注意喚起のメッセージである。青年として還元する義務のある母国に対し、永遠に奉仕や感謝をする恩義があるのである。

国	概要
マレーシア	マレーシアのNPIは、マレーシアの独自性や多様な文化を観客に体験してもらうことを目的としている。演目には、若者に人気のある現代的な踊りと、多様な民族、人種、州の伝統舞踊が含まれる。NPの文化的な部分は、伝統武術であるシラットや君主を楽しませるためのガムラン舞踊から始まる。また、三つの主要人種であるインド系、マレー系、中華系の様々な舞踊により、色彩豊かな文化を表現する。NPのクライマックスに向け、サバ州とサラワク州の民族の興味深い舞踊が、竹を使いながら演じられる。その他、多様な民族や背景からなるマレーシアの人々の民族融和を説く詩「キタ・サトゥ・マレーシア」を、マレーシア参加青年が歌う。NPの最後を締めくくる演目として「マレーシア・イヤー・オブ・フェスティバル」のテーマソングに合わせて、マレーシア参加青年全員で踊る。

(8) 自主活動

自主活動は、一人または複数のメンバーにより、自らがやりたいと思う活動を自由に企画し、参加者を募り、実践する活動である。これにより、PYは自らの考えや思いを発信、企画、実践する力を養うことができ、国やSG、ディスカッショングループの枠を超えて活発に交流することができた。

< 自主活動の例 >

- ・ ミュージックバンド
- ・ 世界エイズデーキャンペーン活動
- ・ ヒジャブ（イスラム教の女性が頭髪を覆う布）の巻き方体験
- ・ 映画観賞会
- ・ SSEAYPタレントショー
- ・ マレーフェスティバル
- ・ クリスマスパティー
- ・ ファッションコンテスト

(9) フリーデイ

公式な活動を行わない半日フリーデイを3回、全日フリーデイを1回、設けた。フリーデイとした日はモーニングコールや運動を行わず、モーニング・アセンブリーは通常よりも時間を遅らせ12時から12時30分の間に行った。

(10) その他の活動

避難訓練（11月5日）

ドルフィンホールでにっぽん丸乗組員から避難の手順等について説明を受けた後、各自室に戻り、船内放送と非常ベルを合図に、各自救命胴衣を着用し、指定の避難場所に集合した。そこでは担当の乗組員から緊急事態発生時の対応方法について説明を受けた。

船内見学（11月7日）

SGごとに、普段は立ち入ることができない操舵室の見学を開催した。乗組員から備えられている最新の機器やその操作方法等について説明が加えられた。

管理官講話（11月8日）

上村秀紀管理官が、出航にあたって、PYに講話を行った。航海の始まりに当たり、管理官としてPYへの期待を述べ、本事業が多くの人々に支えられているものであることを常に意識して事業に臨み、新しいことにも果敢に挑戦して欲しいと激励した。

船長講話（11月8日）

にっぽん丸の久保滋弘船長がPYに対して、船の設備や航海に必要な専門知識について説明した後、海に関する質疑応答を行い、PYの航海に対する認識を高めた。

5 訪問国活動

訪問国における活動は、各国政府及び各国受入委員会が計画し、実施した。各国受入委員会には各国事後活動組織のメンバーも含まれており、バスへの添乗など訪問国活動の実施においては、既参加青年が中心となって積極的な役割を担った。

東南アジア各国の寄港地には、4又は5日間の日程で訪問し、それぞれの国において、一般家庭でのホームステイ、政府要人への表敬訪問、地元青年との交流、産業・教育・文化・社会福祉分野などの諸施設を見学する課題別視察などを行った。フィリピン訪問国活動においては、ディスカッション活動の8グループごとに、グループ・テーマに沿った内容の課題別視察を行った。

以下は、各国における訪問国活動日程を訪問国順に記録したものである。

(1) フィリピン

月日	時間	活動内容
11月11日 (水)	7:30-8:00 9:00 10:00-12:00 12:45-13:15 14:00-14:45 15:00-18:00	フィリピン国旗掲揚式(ドルフィンホール) 入港(マニラ港) COCでのブリーフィング 受入委員会によるオリエンテーション(ドルフィンホール) 記者会見(ダイヤモンドホテル) 到着歓迎式(ダイヤモンドホテル) ・ Atty. Ericson A. Alcovendazマニラ市行政官あいさつ ・ マニラ市から記念品贈呈(管理官) ・ 上村秀紀管理官あいさつ ・ Mr. Gregorio Ramon A. Tingson国家青少年委員会議長による駐フィリピン共和国日本国特命全権大使紹介 ・ 石川和秀駐フィリピン共和国日本国特命全権大使あいさつ ・ Mr. Earl P. Saavedra国家青少年委員会理事による基調メッセージ紹介 ・ Mr. Paolo Benigno A. Aquino IVフィリピン共和国上院議員基調メッセージ ・ 記念品交換 ・ 記念撮影 ・ PYによるパフォーマンス
11月12日 (木)	8:15-8:45 10:00-12:00 14:30-16:30	ホームステイ説明(ドルフィンホール) 課題別視察(ディスカッション・グループ別) DG-1 青年の起業: パヤタス地区GK(ガワッド・カリंगा)13 DG-2 異文化理解促進: 国家文化芸術委員会 DG-3 環境(自然災害と防災): マニラ首都圏開発局 DG-4 食育: フィリピン女子大学 DG-5 保健教育(HIV/AIDS対策): サン・ラザロ病院、ピノイ・プラス財団 DG-6 国際関係(日・ASEAN協力): JICA技術教育モデル校支援プロジェクト(RESPSCI) DG-7 学校教育: ドン・ボスコ青少年センター DG-8 情報とメディア: TV5 ホームステイ・マッチング(GSIS体育館)
11月13日 (金)	 9:30-10:30 18:00-21:00	<PY> ～終日ホームステイ～ <管理官、各国NL、管理部門、ファシリテーター> 献花式(リサール記念碑) 既参加青年のつどい(ドルフィンホール及びダイニングルーム)

月日	時間	活動内容
11月14日 (土)	11:30-12:45 13:15-14:15 15:55-16:50	PYホームステイより帰船 船内公開 出港式(ドルフィンホール) ・ Ms. Corazon Remoホストファミリー代表者あいさつ ・ PY代表Mr. Pinyo Meephiam(タイPY)あいさつ ・ Brigadier General Joselito Kakilalaフィリピン国軍政軍関係司令官あいさつ ・ Mr. Earl P. Saavedra国家青少年委員会理事あいさつ ・ 記念品交換 ・ Mr. Jose Sixto Dantes III国家青少年委員会理事あいさつ
	17:00	出港

(2) ベトナム

月日	時間	活動内容
11月17日 (火)	7:00 7:30-8:00 10:00-12:00 13:30-14:30 15:00-15:15 15:30-16:30	入港(ホーチミン市、カッタライ港) ベトナム・ラオス国旗掲揚式(ドルフィンホール) COCでのブリーフィング 記者会見(ラウンジ「海」) 受入委員会によるオリエンテーション(ドルフィンホール) 到着歓迎式(カッタライ港) ・ PYによるフラッグ・チアー ・ Mr. Nguyen Long Haiホーチミン共産青年同盟中央委員会書記官・ベトナム国家青少年委員会常任副議長あいさつ ・ 上村秀紀管理官あいさつ
	17:00-18:00	<管理官、各国NL> ホーチミン市党内委員会副書記官表敬訪問(ホーチミン市ホール) ・ Mr. Tat Thanh Cangホーチミン市党内委員会副書記官あいさつ ・ 記念品交換
	18:30-19:45 20:00-21:30	歓迎夕食会(ホーチミン市ミーティングホール) ・ Ms. Nguyen Thi Leホーチミン市党内委員会常任委員・大衆動員部長あいさつ 文化交流(ホーチミン市ミーティングホール) ・ 地元青年によるパフォーマンス ・ PYによるパフォーマンス
11月18日 (水)	9:30-12:00	ホーチミン市博物館、水上人形劇視察
	16:15	<管理官、ラオスNL、各国YL> ラオス・ビエンチャンへ出発(VN-920便)
	14:00-17:00	クチトンネル視察

月日	時間	活動内容
11月19日 （木）	8:45-9:00 10:00-12:00 14:30-16:30	ホームステイ説明(ドルフィンホール) 課題別視察(SG別) SG-A: トウイチュー新聞 SG-B: ホーチミン市学生会館 SG-C: ホーチミン市工科教育青年大学科学技術開発センター SG-D: 3区ホーチミン共産青年同盟 SG-E: 5区ホーチミン共産青年同盟 SG-F: 10区ホーチミン共産青年同盟 SG-G: サイゴン・ツーリスト社 SG-H: ホーチミン市中央産業法人グループ SG-I: ホーチミン市経済大学 SG-J: ホーチミン市人文社会科学大学 SG-K: トン・ドゥック・タン大学 ホームステイ・マッチング(ホーチミン市ミーティングホール)
11月20日 （金）	15:05	<PY> ～ 終日ホームステイ～ <管理官、ラオスNL、各国YL> タンソンニャット国際空港到着(VN-921便) <各国YL> ホームステイ・マッチング(タンソンニャット国際空港)
	18:00-21:00	既参加青年のつどい(ドルフィンホール及びダイニングルーム)
11月21日 （土）	11:00-12:00 14:00-15:00 15:30-16:30 17:00	PYホームステイから帰船 船内公開 出港式(カットライ港) ・ Mr. Lam Dinh Thangホーチミン共産青年同盟ホーチミン市委員会常任副書記官 あいさつ ・ PY代表Mr. De Quiroz, Jonathan Garcia(フィリピンYL)あいさつ 出港

(3) ラオス（代表団：管理官、ラオスNL、各国YL）

月日	時間	活動内容
11月18日 （水）	19:20 19:30	ワットタイ国際空港到着（VN-920便） Ms. Keooudone Sengmanivongラオス青年同盟副局長あいさつ（ワットタイ国際空港）
11月19日 （木）	5:00-6:00 9:00-10:00 10:20-11:20 11:20-11:50 12:00-14:00	托鉢体験（自由参加） ラオス青年同盟総裁表敬訪問 ・ Dr. Vilayvong Bouddakhamラオス青年同盟総裁あいさつ ・ PY代表吉田幸広（日本YL）あいさつ ・ 記念品交換 ラオス人民民主共和国副首相表敬訪問 ・ Dr. Bounpone Bouttanavongラオス人民民主共和国副首相あいさつ ・ 上村秀紀管理官あいさつ ・ 記念品交換 記念撮影（パトゥーサイ（凱旋門）） 歓迎昼食会及びホームステイ・マッチング（クアラオ・レストラン） ・ 上村秀紀管理官あいさつ ・ ラオス青年同盟代表者あいさつ ・ YLによるパフォーマンス
11月20日 （金）	11:50	ベトナム・ホーチミン市へ出発（VN-921便）

(4) ミャンマー

月日	時間	活動内容
11月26日 (木)	7:30-8:00 16:00 17:00-19:00 19:00-20:00	ミャンマー国旗掲揚式(ドルフィンホール) 入港(ヤンゴン、ボアウンチョー港) COCでのブリーフィング 記者会見(ラウンジ「海」)
11月27日 (金)	8:00-8:45 9:00-10:30 13:30-15:00 18:30-21:00	受入委員会によるオリエンテーション(ドルフィンホール) 到着歓迎式(ボアウンチョー港) ・ PYによるフラッグ・チアー ・ U Myint Sweヤンゴン管区知事による花束贈呈 ・ Dr. Lwin Lwin Soeヤンゴン外国語大学総長あいさつ ・ 上村秀紀管理官あいさつ 課題別視察(ディスカッション・グループ別) DG-1: ヤンゴン経済大学 DG-2: ヤンゴン芸術文化大学 DG-3: ヤンゴン大学 DG-4: ダゴン大学 DG-5: ヤンゴン第一薬科大学 DG-6: ヤンゴン外国語大学 DG-7: ヤンゴン教育大学 DG-8: 国立マネジメント・カレッジ 歓迎夕食会(スーレー・シャングリラ・ヤンゴン) ・ Dr. Daw Khin San Yee教育大臣あいさつ ・ 樋口建史駐ミャンマー連邦共和国日本国特命全権大使あいさつ ・ 記念品交換 ・ PYによるパフォーマンス ・ 記念撮影
11月28日 (土)	8:00-8:30 9:30-11:30 13:30-14:00	ホームステイ説明(ドルフィンホール) ホームステイ・マッチング(ダイヤモンド・ジュビリー・ホール) ・ Dr. Myo Thein Gyi西ヤンゴン大学総長あいさつ <管理官、各国NL> ヤンゴン管区知事表敬訪問 ・ U Myint Sweヤンゴン管区知事あいさつ ・ 上村秀紀管理官あいさつ ・ 記念品交換 ・ 記念撮影
	18:00-21:00	既参加青年のつどい(ドルフィンホール及びダイニングルーム)
11月29日 (日)	11:00-12:00 13:00-14:00 14:45-15:15 16:30	PYホームステイから帰船 船内公開 出港式(ドルフィンホール) ・ Dr. Lwin Lwin Soeヤンゴン外国語大学総長あいさつ ・ PY代表Mr. Mai Ngoc Nhan(ベトナムYL)あいさつ 出港

(5) マレーシア

月日	時間	活動内容
12月5日 (土)	7:30-8:00 10:00 10:30-12:30 13:00-13:30 14:00-14:30 15:00-16:00 19:45-21:30	マレーシア国旗掲揚式(ドルフィンホール) 入港(コタキナバル、ジェッセルトン港) COCでのブリーフィング 受入委員会によるオリエンテーション(ドルフィンホール) 到着歓迎式(ジェッセルトン港) ・上村秀紀管理官あいさつ ・Datuk Suzannah Liawサバ州青年スポーツ省事務次官あいさつ 記者会見(ラウンジ「海」) 歓迎夕食会(シャングリラ・タンジュナル・リゾート・アンド・スパ・コタキナバル) ・上村秀紀管理官あいさつ ・児玉良則駐マレーシア日本国大使館公使あいさつ ・Datuk Seri Panglima Musa Haji Amanサバ州知事メッセージ(Datuk Haji Tawfiq Bin Datuk Seri Panglima Haji Abu Bakar Titinganサバ州青年スポーツ大臣代読) ・記念品交換 ・PYによるパフォーマンス
12月6日 (日)	9:00-12:30 10:00-11:00 14:30-15:30	課題別視察(SG別) SG-A, B: ユニター国際大学 SG-C, D: マラ工科大学(UiTM) SG-E, F: サバ州放送行政局 SG-G: サバ州芸術文化局 SG-H, I: マレーシア・サバ大学 SG-J: サバ州保健局 SG-K: アジア観光国際大学 サバ州青年スポーツ大臣表敬訪問 ・Datuk Haji Tawfiq Bin Datuk Seri Panglima Haji Abu Bakar Titinganサバ州青年スポーツ大臣あいさつ ・記念品交換 ホームステイ・マッチング(コタキナバル・スポーツ・コンプレックス)
12月7日 (月)		<PY> ～終日ホームステイ～
	18:00-21:00	既参加青年のつどい(ドルフィンホール及びダイニングルーム)
12月8日 (火)	12:00-13:00 14:30-15:30 16:30-17:30 18:00	PYホームステイから帰船 船内公開 出港式(ジェッセルトン港) ・PYによるフラッグ・チアー ・PY代表Ms. Latsamy Banmanivong(ラオスYL)あいさつ ・Datuk Jamil Bin Sallehマレーシア青年スポーツ省事務次官あいさつ 出港

6 解散式・解散パーティー

12月15日18時から、にっぽん丸船内ドルフィンホールにて解散式を行った。

解散式では、はじめに安田貴彦内閣府青年国際交流担当室長が各国NLに参加証書を授与した。続いて、PYの代表として各国のYLに参加証書が授与された。その後、安田室長からあいさつがあり、続いてPY代表とし

てMs. Nu Nu Lin（ミャンマーYL）があいさつをした。

続いて18時45分よりダイニングルームで解散パーティーを開催した。武川光夫内閣府政策統括官よりあいさつがあり、PY代表としてMr. Azlan Shah Bin A Shafiuddin（マレーシアYL）があいさつをした。

7 下船・帰国

12月14日の9時45分から、全NL、PYに対して、下船手続きの説明を行った。次に、国別ミーティングの後、国ごとに設定した1階荷物置場に各自の荷物を移動した。

12月16日6時から、日本以外のPYは国別に順次ダイニングルームに集合し、それぞれバスで成田国際空港または羽田空港に向かい、帰国した。

8 日本参加青年の帰国後研修

内閣府は、37名の日本参加青年に対し、12月16日及び17日の2日間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて帰国後研修を行った。日本参加青年は事業の振り返りを行うとともに、事業報告会の

準備を進めた。また、船内で話し合い、帰国報告会で発表した事後活動プロジェクトについて、更に議論を深めた。